

高齢者虐待発生要因と予防のポイント

課題 1 組織経営に課題がある		
背景・要因		☒ 予防のポイント ☐ 組織の理念や組織目標の共有と見直しを図っている ☐ 組織の理念や組織目標を職員が具体的に理解している ☐ 職員を支援する仕組みを整備している ☐ 苦情を受けつけ対応する体制が整備され周知されている
●組織設立の理念や組織目標が共有されていない ●利用者の立場を考えた組織になっていない ●経営責任が果たされていない	⇒	
課題 2 チームケアが上手くいっていない		
背景・要因		☒ 予防のポイント ☐ それぞれの職種の専門性や役割の相互理解を進めている ☐ 職員間の報告、連絡、相談のやり方を決めている ☐ 話し合いを否定や批判ではなく、合意を形成する場にする ☐ チームケアの目的を確認している ☐ 管理職は職員がチームケアの成功体験をできるようにする ☐ ヒヤリハットや事故報告を検討し、共有して活用している
●ケアはチームで行うという意識が薄い ●連携の目的がより良いケアの提供ではなく、職員の人間関係維持に向いている	⇒	
課題 3 提供するケアに課題がある		
背景・要因		☒ 予防のポイント ☐ <u>認知症の利用者のアセスメント方法や認知症ケアの方法</u> を知っている ☐ 一人ひとりのニーズを把握し、ニーズに合ったケアプランを作成している ☐ 職員の経験に応じた教育システムができている ☐ ケアに関する相談しやすい環境、体制ができている ☐ 他の施設の見学や外部の研修を受ける機会がある ☐ 外部研修の伝達が十分にされている
●認知症ケアの専門的知識・技術の習得が十分ではない ●ケアの前提となるアセスメントが十分に行われていない ●一人ひとりの利用者に合わせたケアが提供されていない ●ケアの質を高める教育が十分でない	⇒	
課題 4 必要な倫理や守るべき法令が理解されていない		
背景・要因		☒ 予防のポイント ☐ ケアになぜ倫理観が必要か理解している ☐ <u>何が高齢者虐待や身体拘束にあたるのか</u> 知っている ☐ 虐待防止や身体拘束廃止の具体的な方法を知っている ☐ <u>虐待防止や身体拘束廃止について話し合う</u> 仕組みがある
●人を支援することの意味を考える機会がない ●虐待・身体拘束に関する意識・知識が不足している	⇒	
課題 5 組織のあり方を変えにくい雰囲気		
背景・要因		☒ 予防のポイント ☐ 管理者が職員一人ひとりの業務内容を把握している ☐ 管理職が職員の負担やストレスに気づき、適切な環境を整備している ☐ 職員の意見を聞く機会を組織として設定している ☐ 利用者、家族、外部の人(実習生やボランティア、第三者評価)の意見を聞く機会がある ☐ <u>経営層が組織のあり方</u> を常に見直している
●組織として負担や<u>ストレスを軽減する取り組み</u>をしていない ●現状を良しとして、組織を変えていくことに抵抗がある	⇒	